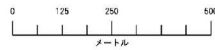
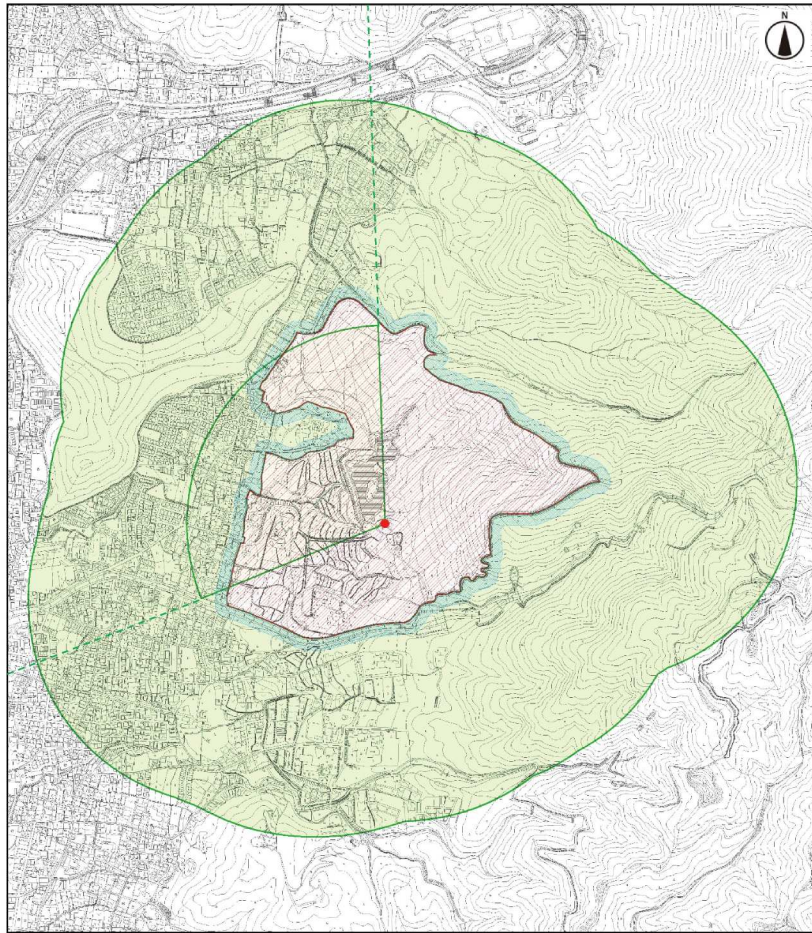


(16) 修学院離宮



視点場から視認することができる建築物等の形態及び意匠は、優れた眺望景観を阻害しないものとして定める以下の基準に適合させる必要があります。(条例第8条)
ただし、基準にあつては、美観地区、美観形成地区、風致地区又は建造物修景地区内にある建築物等で、当該各地区において定められた形態意匠基準に適合し、かつ、市長が優れた眺望景観を阻害しないと認めるものについては適用しなくてもできます。

境内の眺め 16-1

●近景デザイン保全区域(■)の基準

- 1 建築物等は、修学院離宮の歴史的建造物、樹木等及びそれらの背景にある空間によって一体的に構成される良好な景観を阻害してはならない。
- 2 建築物等は、次に掲げる基準に適合するものでなければならない。

形態・意匠	屋根	<ul style="list-style-type: none"> 特定勾配屋根とすること。 形状は、切妻、寄棟又は入母屋とすること。 日本瓦又は銅板で葺かれていること。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> 塔屋を設けないこと。 建築物等の各部は、離宮内の歴史的建造物等及び周辺の山並みの良好な眺めを阻害しないものとする。
色彩	<ul style="list-style-type: none"> 建築物等の外壁、屋根等の色彩は、禁止色を用いないこととし、離宮内の樹木等及び周辺の自然景観との調和に配慮したものとすること。 	
その他	<ul style="list-style-type: none"> 良好な離宮内の眺めの保全に支障となる建築設備、工作物等を設けないこと。 	



宮内庁京都事務所提供

修学院離宮「隣雲亭」からの岩倉方面 16-2

●近景デザイン保全区域(■)の基準と範囲

- 1 建築物等は、隣雲亭から岩倉方面を眺めるときに離宮内の歴史的建造物、樹木等及びその背景となる山並みによって一体的に構成される良好な景観を阻害してはならない。
- 2 建築物等は、次に掲げる基準に適合するものでなければならない。

基準	形態・意匠	<ul style="list-style-type: none"> 特定勾配屋根とすること。 形状は、切妻、寄棟又は入母屋とすること。 日本瓦又は銅板で葺かれていること。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> 塔屋を設けないこと。 建築物等の各部は、離宮内の歴史的建造物等及び周辺の山並みの良好な眺めを阻害しないものとする。
色彩	<ul style="list-style-type: none"> 建築物等の外壁、屋根等の色彩は、禁止色を用いないこととし、離宮内の歴史的建造物、樹木等及び周辺の自然景観との調和に配慮したものとすること。 	
その他	<ul style="list-style-type: none"> 良好な離宮内の眺めの保全に支障となる建築設備、工作物等を設けないこと。 	
範囲	視点場(●)「隣雲亭」の点 視点場から方松場の中心を向いてそれぞれ左へ90度の方向に引いた直線と右へ20度の方向に引いた直線とで挟まれた。視点場からの水平距離が500m以内の左図に示す範囲	



宮内庁京都事務所提供

●遠景デザイン保全区域(■)の基準と範囲

基準	建築物等の外壁、屋根等の色彩は、禁止色を用いないこととし、山並みとの調和に配慮したものとすること。
範囲	視点場(●)「隣雲亭」の点 視点場から方松場の中心を向いてそれぞれ左へ90度の方向に引いた直線と右へ20度の方向に引いた直線とで挟まれた。左図に示す範囲(近景デザイン保全区域を除く。)

凡例	区域の種別	区域の範囲(事前協議の対象範囲)	事前協議の対象行為
	視点場(境内)	修学院離宮の敷地のうち、左図に示す範囲	建築物の新築、増築
	視点場に近接する区域	視点場(境内)の範囲の境界線からの水平距離が30m以内の範囲	
	近景デザイン保全区域(境内)	視点場(境内)の範囲の境界線からの水平距離が500m以内の範囲	建築物の大規模な新築、増築(床面積2,000㎡以上)

注:事前協議の対象となる工作物については、本冊子の8ページを御覧ください。

上表の区域の種別のとおり、視点場、近景デザイン保全区域及び視点場に近接する区域において、建築物等の建築等を行うようとする場合は、景観申請等を行う前に当該建築物等の建築等に係る計画について市長と協議する必要があります。(条例第15条)